

平成27年 6 月 青葉区議員団会議 会議録

開催日時	平成27年6月9日(火) 午後 4 時15分から午後 5 時15分まで
場 所	青葉区役所 4 階特別会議室
出席者	<p>【議 長】 行田 朝仁議員</p> <p>【議 員：8名】 藤崎 浩太郎議員、山下 正人議員、横山 正人議員、大貫 憲夫議員、青木 マキ議員、赤野 たかし議員、小島 健一議員、内田 美保子議員</p>
	<p>【説明局員】 (青葉区：30名)</p> <p>小池 恭一区長、大野 敏美副区長、勝島 聡一郎福祉保健センター長、小嶋 哲夫福祉保健センター担当部長、榎 重善青葉土木事務所長、関谷 寿男青葉消防署長ほか関係職員</p>
次 第	<p>はじめに 平成27年 4 月 1 日現在青葉区経営責任職・運営責任職の紹介</p> <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成27年度青葉区区政運営方針の策定について 2 横浜市都市計画マスタープラン青葉区プラン「青葉まちづくり指針」改定作業の進捗について 3 第3期青葉区地域福祉保健計画について 4 その他
報告事項 1	平成27年度青葉区区政運営方針の策定について
発 言 の 旨	<p>藤崎議員 「Ⅲ 目標達成に向けた組織運営」の中に「チャレンジ精神を持って取り組み」とあるが、このチャレンジ精神を応援するような取り組みはあるのか。</p>
	<p>室谷区政推進課長 我々職員が、役所の枠から一步踏み出して地域に入り、地域の皆さんの目線で課題を見て、チャレンジ精神を持って進めていきたい。</p>
	<p>藤崎議員 だれもが挑戦して、それを皆でサポートできるような青葉区政を続けていただきたい。</p>
	<p>大貫議員 横浜市の課題として、少子化と高齢化は同じレベルで考えなくてはならない。 青葉区の区政運営方針の中でも、高齢化対策についてもう少しクローズアップすべきだったのではないかと。</p>
	<p>小池区長 現状では、青葉区は市内で2番目に平均年齢が若いですが、今後急速に高齢化していくと思われる。 したがって、高齢化の問題は子育てと並んで取り組むべき重要な課題であると認識している。</p>
	<p>内田議員 「四つの柱」の一つに「大切な環境を守り育むまち」とあるが、私の家の前でも、掃除をしても吸い殻を捨てていく大人や、塾の帰りに庭の中にごみを捨てていく子どもがいる。 区民まつり等の機会に、ごみに関してもっと考えようという全体運動のようなものを、今後4年間、10年間、ぜひ取り組んでほしいと考えるが、どうか。</p>

発 言 の 旨	植村資源化推進 担当課長	横浜市では条例を制定し、ポイ捨て防止に取り組んでいる。 青葉区でも、美化推進員や環境事業推進委員にもご協力いただき、これからも一生懸命取り組んでいきたい。
	赤野議員	区政運営方針には“住みつづけたいまち「青葉」”という「基本目標」があり、次に「目標達成に向けた施策」と「目標達成に向けた組織運営」があるが、何をもって目標達成とするのか。何か数値的な目標があるのか。
	室谷区政推進課 長	区民意識調査では毎年、「あなたは青葉区に住み続けたいですか」という質問をしている。 これに対し、現在も8割を超える方々が「住み続けたい」とおっしゃっているが、それを維持する、さらには高めていくということが一つの目標となると考えている。
	赤野議員	維持すれば目標達成なのか、高めれば達成なのかで全然違う。 例えば、「住み続けたいか」という質問では「80何%を何%に上げる」というところまで設定しないと、目標とは言えないと思うが、どうか。
	室谷区政推進課 長	現時点では数値目標は設定していないが、今後考えていきたい。
	赤野議員	区民の方からすると、区役所が何をもって目標達成としているのかわからないと思う。 数字を設定をしたからといって何が何でもそれを守らなくてはいけないというわけではないが、目標の設定がしっかりしていなければ目標達成も何もない。 そのあたり、行政として適確にやっていただきたい。
報告事項2 横浜市都市計画マスタープラン青葉区プラン「青葉まちづくり指針」改定作業の進捗について		
発 言 の 旨	横山議員	この計画は、これから20年先、平成47年の青葉区を想定しているわけだが、都市計画決定がされているにもかかわらずまだ事業化されていない道路などがある。 例えば、恩田元石川線などは、平成7年から検討が開始されてもう20年たっている。この道路は20年後にはできていて当たり前と考えるが、どうか。
	郷間区政推進課 担当課長	恩田元石川線と真光寺長津田線については、必要な幅員を換地等で確保していき、将来の開通に向けて、青葉区役所や道路局、区民も一緒になって取り組んでいけるようなプランにしたい。
	横山議員	ということは、20年後にはこの道路網が完成されているという前提で都市計画マスタープランは作られている、ということでしょうか。
	郷間区政推進課 担当課長	都市計画マスタープランは、20年後の将来像としてこの道路が必要だ、ということを描いたもので、事業計画ではない。 事業計画については、都市計画道路であれば、道路局の事業計画でうたわれていくものと考えている。

発 言 の 旨

<p>横山議員</p>	<p>20年後の青葉区のまちづくりについて考えましょうという話なのに、20年後にできているであろうとされる想定がなければ、議論ができない。 恩田元石川線が端的な例だが、20年前に計画された道路なのに、今も用地買収すら進んでいない。 それを画に描いた餅にしないために、ここまではやる、この道路はちゃんと作る、このようなまちづくりをする、という想定がなければ、計画を作ることはできないのではないか。</p>
<p>横山議員</p>	<p>責任の所在があいまいで、横浜市としてこのようなまちづくりをやりますよということを、しっかりと明示できていないところに、この都市マスタープランの限界があると思っている。 青葉区自体が政令指定都市の行政区で、区長であっても「やる」と言う権限はない。これは大都市の根本的な問題。 「やりますよ」と言える人は、一体だれなのか。</p>
<p>郷間区政推進課 担当課長</p>	<p>都市計画マスタープランというのは、あくまで計画であり、それを実際にどのような時期にどのような形で整備していくかということは、道路であれば道路局が事業計画の中で検討していく。 一つの道路を整備するには、莫大な予算が必要になる。関係部局としては、限られた予算の中で事業の選択と集中を考えているものと認識している。</p>
<p>横山議員</p>	<p>恩田元石川線は、住民参加の道路づくりという新たな手法で道路をつくりましょうということで、20年前に検討が始まった。 普通の道路であれば、もう完成していて当たり前なのだが、恩田元石川線については、きめ細かく進めると言ってこれだけの時間がかかっている。 市営地下鉄3号線も、横浜市はやる気になっているが、今の段階では川崎市はその気はないと聞いている。20年後には具体的に工事に入っていないなければならないのに、今の段階ではそれもわからない。 市長なり副市長なりが、「責任を持ってやります」ということを言わない限り、本当に信頼できる都市マスタープランというのは出来ないのではないか。</p>
<p>大野副区長</p>	<p>指針の改定の中間案では「恩田元石川線の整備を行うことにより、格子状の骨格道路網を形成します」とはっきりとうたっている。 このように表記するにあたっては、関係局と調整している。したがって、このような記載をしたからには、青葉区として関係局も含めて、実現に向けて努力していくものと考えている。</p>
<p>横山議員</p>	<p>「ここに記載されたものについては、20年後、平成47年までには確実に実行するのだ」という意志をかたく持てるような指針を作る努力が必要。 書いたことについては必ず実行するということをどこかに書いて決意を示すべきだと考えるが、どうか。</p>
<p>小池区長</p>	<p>都市計画マスタープランに「整備します」と書くまでが結構大変なことで、局も了解し記載している。 地下鉄についても同じことが言えるが、ここにこのように書き込むということ、活字にするということは大事なことだと思っている。 ただ、計画を実現するためには予算がつかなければならないので、そういう意味で、この計画をもって「大丈夫です」とは言えない、ということを上げてきた。 局も「約束する」とは言わないと思うが、ここに記載するという事は一定の判断を確保したことになると考えている。</p>

発言の旨

山下議員	区内の3つの地域を生活支援拠点と位置付けるとのことだが、拠点には商業施設を誘致するという理解でよいか。
郷間区政推進課 担当課長	生活支援拠点は、基本的に、大規模な団地等があるところを想定している。 今の時代、商業施設の誘致はなかなか難しいが、地区計画などの規制緩和によって、地域に必要な施設・機能が入るよう誘導していきたいと考えている。
山下議員	高齢化が進んでいる地域では、商店街もシャッターが閉まっている状態。 税金をかけて誘導したり、規制緩和したところで、商売にならなければ、皆、出て行く。 今のところ、規制緩和的な発想しかないようだが、それ以外の発想はこれから意見募集等を行う中で入れていくということだよいか。
郷間区政推進課 担当課長	規制緩和をある程度明示すれば、民間デベロッパーとしては一定の緩和措置などを行政側に期待する。 その中で、地域に必要な利便施設などを誘導していく手法も想定しうる。
山下議員	規制緩和をして、たまプラーザ団地のように全部建て替えるというのも1つの方法だが、規制緩和しても民間デベロッパーの進出をなかなか期待できない所もある。 たとえばすすき野では地下鉄の計画もあるが、高齢者にとってはバスのほうが優しい交通機関。バス停は300メートルピッチで設置できるし、低床車両もある。 駅まで15分という計画の中で、例えばあざみ野あたりに集まるようなバス路線を整備することも考えられる。あざみ野は、道が広いのでバスの定時運行も担保できる。 今、国交省が、団地再生のモデルプランを探している。そうした国の動きなども見据えながら、本当に思いきったこと、通常的手法を超えることをやっていかないと、団地再生といっても限界があるのではないか。
郷間区政推進課 担当課長	横浜市には、持続可能な住宅地、郊外住宅地づくりとして4つのモデル地区があり、その1つが美しが丘地区で、これまでにいろいろな取り組みをしている。 団地再生、持続可能な住宅地の実現への取組は、全国的に見ても暗中模索の状況であり、その模索の中で青葉区に合った手法を見つけていきたい。
大野副区長	青葉区は、田園都市線の駅周辺を中心に町が発達している一方で、駅から離れたところに大きな住宅地が広がっている。 こうした地域で高齢化が進んでいくと、駅まで行くこと自体が大変な方が増える時代が来るかもしれない。 こうした認識から、駅から離れたエリアに住む方が、お住まいの周辺で一定の日常生活が送れるような拠点が必要ではないかと考えた。 こうした生活拠点的なものを何か所か展開させて、高齢者から若い人まで、そこで日常的な生活が送れるというのが、生活支援拠点のコンセプトである。
山下議員	それは柏の豊四季台団地のように、1階に介護施設等を誘致しながら、上を住宅街にするというようなイメージを考えているのか。

<p>大野副区長</p>	<p>まだ具体的な施設の想定には至っていないが、日常生活が一定程度送れるような場所が、駅から離れたところにも必要ではないかというのが、生活支援拠点のコンセプトである。</p>
<p>藤崎議員</p>	<p>計画策定を2年後ろ倒しにして、青葉区独自の取り組みとして意見募集やワークショップを行うということだが、この意見募集とワークショップの結果によっては、今見ているものから全面的に変わるということもあり得るのか。それとも部分的な修正に留まるのか。</p>
<p>郷間区政推進課 担当課長</p>	<p>今回の素案の策定にあたっては、昨年度の説明会やシンポジウム、区民会議での1,000人規模のアンケートやNPO法人の青葉まちづくりフォーラム等で、学識経験者等の専門家から一般の住民の方まで、色々なご意見をいただいた。 これらのご意見や、区民意識調査の結果等を整理し、一つの方向性として今回素案をまとめさせていただいた。 原案に向けた今後の修正については、素案が今までのまちづくりのトレンドやこれまで頂いた多くのご意見を基に策定していることから、それほど大きな修正はないものと考えている。 行政として、今回一定の方向性をお示しすることで、今後の説明会等で、原案策定に向けたより具体的なご意見をいただけるものと考えている。</p>
<p>藤崎議員</p>	<p>ここ数年、青葉区の中でも色々な蓄積が行われてきた。 他の区から見ても、やはり青葉区は違うなというような取り組みと成果が出てくることを期待している。</p>
<p>大貫議員</p>	<p>生活支援拠点に日向ぼっこするおじいちゃん、おばあちゃんが出て、その中だけで生活するというようなことではなく、やはり活気がなければいけないと思う。 郊外地であってもそこに経済的な種があり、動きがあって、そこにいろいろな交流が生まれる青葉区でなければいけない。 したがって、高齢者だけでなく若い人達を含めた色々な年齢層の人がそこに集まるような、経済的な芽が出るようなまちづくりが必要なのではないか。</p>
<p>郷間区政推進課 担当課長</p>	<p>若い人達にとって魅力があるまちというのは、子どもを安心して遊ばせることができる、あるいは、子育て中や復帰後にすぐに働ける場所がある所だと考えている。 そのために何ができるかというと、青葉区民のカラーからすれば、シニアパワーを十分に生かし、なおかつ若い世代と融合できるような新しいビジネスを生み出す、ということも視野に入ってくる。 そのような場・施設を民間から誘導するような枠組みを用意できないかと考えている。</p>
<p>大貫議員</p>	<p>よくわかった。頑張ってほしい。 あと一点、3ページを見ると、残念ながら青葉区は緑被率が下がってきている。青葉区が一番魅力的なところが象徴的に下がってしまっている。 これを復活させる方策について、マスタープランの中で具体的に考えているのか。</p>
<p>郷間区政推進課 担当課長</p>	<p>今までは緑の維持保全だったが、それに加えて新しく、緑の創造も必要になってくる。 ただ、そのための具体策が今はない状態なので、今後の説明会やワークショップの中でご意見をいただきながら、関係部局とも調整を図っていきたい。</p>

発 言 の 旨	大貫議員	<p>6 ページに「基本的には現在の土地利用規制を継承し」と書いてある。これは非常に重要。緑が減ってしまうようなことがあれば、基本的な青葉区のコンセプトと違ってしまふ。</p> <p>青葉区、旧緑区では、駅の周辺が“逆線引き”されて、市街化区域から調整区域に変わったという歴史もある。</p> <p>緑を減らさない、今ある市街化区域内の緑も守っていく、ということをプランの中にきちんと入れてほしい。</p> <p>企業が保有する未利用地についても、企業の考え方の変化によっては将来どうなるかわからない。いわゆる都市計画提案制度によって今ある緑がなくなる可能性もあり、むしろ規制を強化するぐらいに考える必要があると思う。</p>
	青木議員	<p>未来のまちづくりの中では、エネルギー問題が環境と同じくらい大きな部分になってくる。</p> <p>4 ページの(5) 番に、「青葉区の特性に即した再生可能エネルギーの活用を進めていくことが必要です」とあるが、この一文だけではちょっと寂しい。</p> <p>青葉区として、もっと打ち出せないか。</p>
	事務局	<p>青葉区としては打ち出していきたいところだが、再生可能エネルギーが具体的にどのように事業展開されていくかについては、国レベルで検討が必要と考えている。</p> <p>したがって今回は、大枠として、再生可能エネルギーの活用を進めていくと書かせていただいた。</p>
	青木議員	<p>暮らしを支えるまちづくりにもかかわってくるので、もう少し大きく取り上げていただけるようお願いしたい。</p>
	報告事項 3 第 3 期青葉区地域福祉保健計画について	
発 言 の 旨	(特になし)	
その他 (救急隊の増隊、青葉区民マラソンについて)		
発 言 の 旨	関谷青葉消防署長	<p>今年度中に青葉台消防出張所に救急隊が増隊されることになった。できるだけ早期に配置されるように調整してまいりたい。</p> <p>増隊により、区内には合計 4 隊の救急隊が配置されることになる。</p> <p>市内では今年度は 3 隊配置になる予定。青葉台のほかに西消防署と泉消防署の中田消防出張所に増隊の計画がある。</p>
	功刀地域振興課長	<p>青葉区民マラソン大会の参加者募集について。</p> <p>11月29日の日曜日、午前 9 時スタートを予定している。</p> <p>距離は昨年度と同じ 10 キロメートル、コースも同様の方向で今後調整していく。</p> <p>募集人数は 100 人増やして 600 人。申込受付は 7 月下旬を予定しており、インターネット、携帯のサイトからの先着順とする。</p> <p>前回は受付開始から 6 日間で定員いっぱいになったが、今年度も二次募集(区外の方)を予定している。</p> <p>参加費については、昨年度は区制 20 周年事業の一環として実施した関係もあり、今回は少しアップさせていただくことを考えている。</p>
	横山議員	<p>区民マラソンについて、去年参加を希望したものの定員に達して走れなかった人はどのくらいいたのか。</p>

功刀地域振興課 長	インターネットでの応募受付は、定員に達した時点で受付を終了したため、申し込めなかった方の人数はわからない。 しかし、その後、電話でのお問い合わせが30件ほどあった。
横山議員	ということは、定員600人程度というのは大体妥当な線で、抽選などにする必要はないということでしょうか。
功刀地域振興課 長	そのように考えている。